

ミズトラノオ *Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata

【選定理由】

個体数階 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物である。

【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、横にはう地下茎から立ち上がり、高さ 30~50cm になる。葉は 3~4 個が輪生し、ほとんど無柄、葉身は線形~広線形、長さ 3~7cm、幅 2~5mm、先端は鋭頭、全縁でやわらかい。花期は 8~10 月、茎の先端に長さ 2~8cm の穂状の花序を 1 個つけ、花を密生する。花冠は淡紅色、雄ずいは 4 本で長さ 7~8mm、花外に突き出し、花糸の中部には密に長い毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城(芹沢 68601)、豊橋北部(芹沢 78860) 額田(小林 65303) 瀬戸尾張旭(日比野修 5475) 名古屋北部(芹沢 77000) 安城(古井町塚下、堀田喜久 7326, 1999-11-6) にも生育していたが絶滅した。名古屋北部もすでに絶滅した可能性が高い。豊川宝飯(宮路山、加藤等次 s.n., 1949-10-23) 犬山(池野村、井波一雄 s.n., 1934-10-8, CBM 192286) で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水湿地や休耕田に生育し、しばしば群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部ではかつては多かつたらしく、秋には道の両側が赤くなるくらいあったというが、耕地整理により山すその水田わきの湿地がなくなり、急激に減少した。ただしごく近年に限れば、強力な除草剤が使用されなくなったためか、やや増加傾向にあるように思われる。新城及び豊橋北部では休耕田に群生しており、生育状態も良好であるが、現在の状態が将来も継続するという保証はない。安城では休耕田に僅かに生育していたが、耕地整理により絶滅した。名古屋北部では水田のわきに僅かに生育していたが、その水田が公園化のために買収され、耕作されなくなって、背の高い草が密生する状態になった。生育していた場所にはとても近づけないが、絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

現在の生育地はほとんどが休耕田で、一時的に増加しても、休耕状態が継続して植生遷移が進行すればやがて消滅するものと思われる。存続のためには湿地状態を維持すると共に、適度の攪乱が必要である。除草剤の散布を避けることも必要である。

【関連文献】

保草本 p.172、平草本 p.83、SOS 旧版 p.76+ 図版 24、環境庁 p.522。